



“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号 3階 電話 (098) 869-8711
2025年12月29日

各 位

株式会社 おきぎん経済研究所

「第102回おきぎん企業動向調査」 (2025年10-12月期) 調査結果

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：上門

問い合わせ先：(電話：098-869-8711 フaxシリ：098-869-2200)

メール：oei-corp@okinawa-bank.co.jp)

現場主義とお客さまからの信頼

第102回おきぎん企業動向調査（2025年10-12月期）調査結果

～県内（地域・業種別）の経営環境と業況感～

I. 調査概要

➤ 本調査では各企業の業況感や経営状況項目などについて、企業経営者の主な判断（当期実績、来期見通し）を景気動向指数DIとして取りまとめる四半期調査です。



【調査時期】2025年11月下旬～12月中旬

【調査対象】県内企業 472社回答

【調査方法】WEBアンケート調査

【調査内容】①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い
⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要

一おきぎんDIとは

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不变（変わらない）」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、各割合を表したもので（本レポートでは「悪化・低下・減少」はマイナス表示を使用）。

雇用に関しては、「過剰・適正・不足」でお答えいただき、「不足」はマイナス表示を使用。

① 「好転・上昇・増加」 + 「不变（変わらない）」 + 「悪化・低下・減少」 = 100%

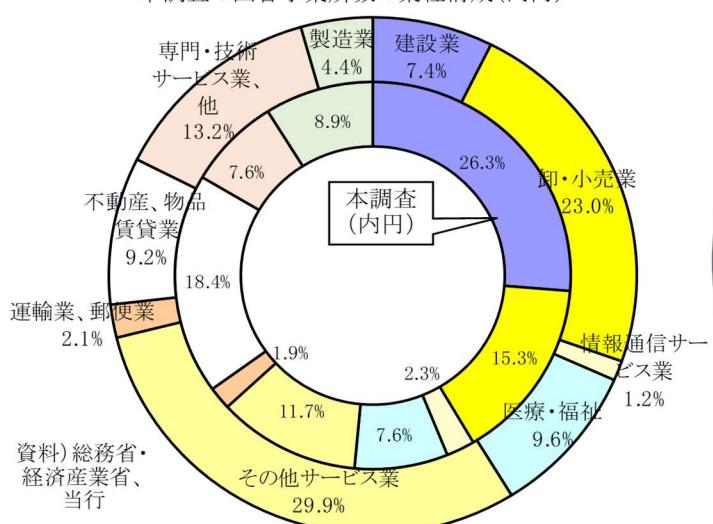
② DI（景気動向指数） = 「好転・上昇・増加」の割合（%） - 「悪化・低下・減少」の割合（%）

従って、DIがプラスなら景気が良い（または上昇見込み）、マイナスなら悪い（または下降見込み）、と捉えます。

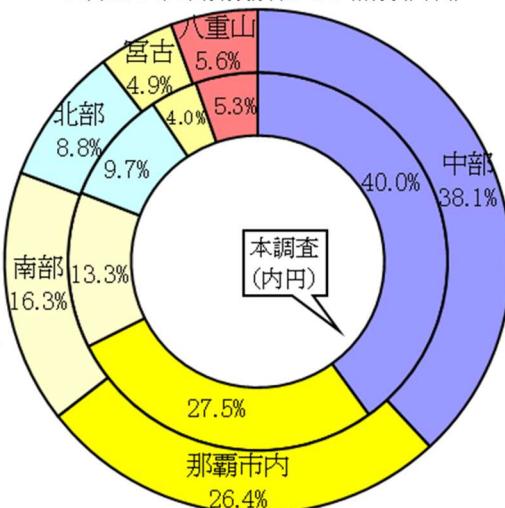
➤ 調査対象企業の業種・所在地構成

本調査の業種構成を県内事業所データ（令和3年経済センサス活動調査）と比べると、【建設業（本調査では土木・建築業）】はサンプリング数が多く、【その他サービス業（宿泊、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）】はサンプリング数が少なくなっています。

県内の産業別事業所数の構成（外円）、
本調査の回答事業所数の業種構成（内円）



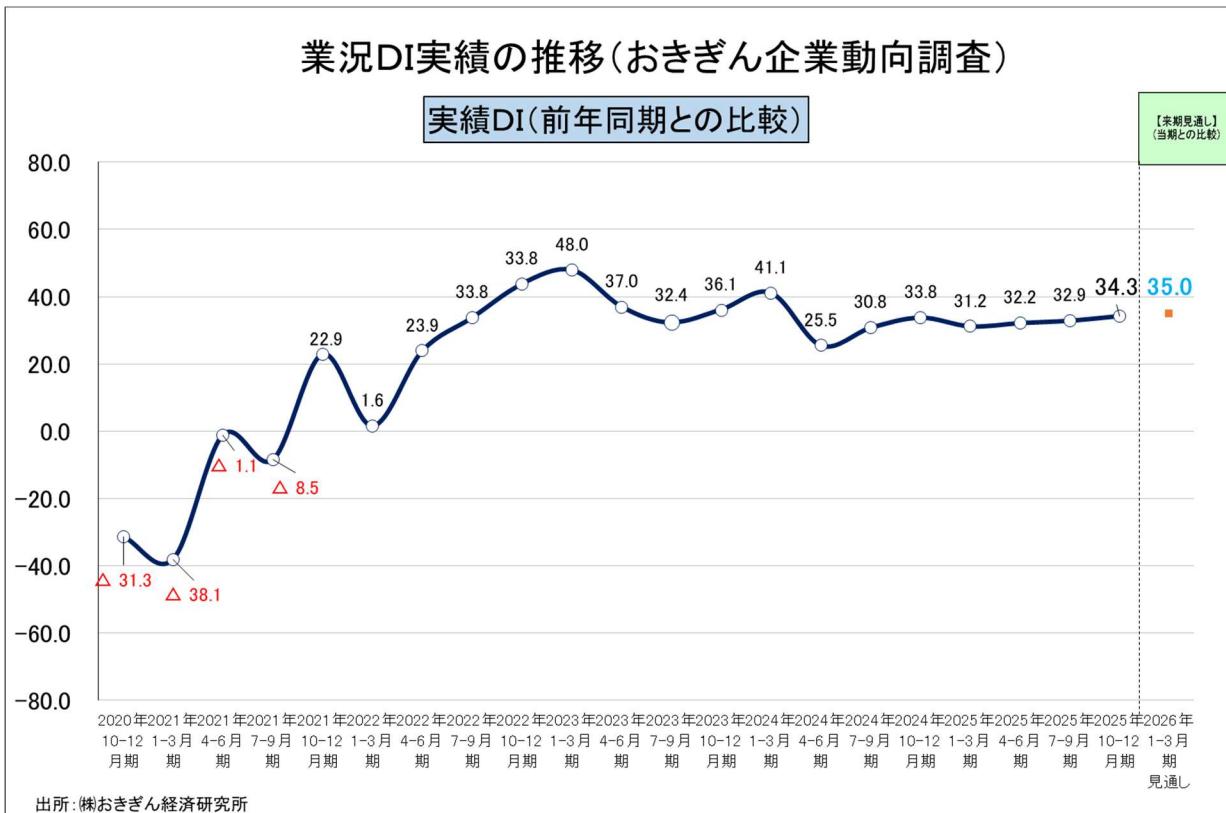
県内の事業所数所在地の構成（外円）、
本調査の事業所数所在地の構成（内円）



II. 調査結果（総論）

- 当期の業況DIは**34.3**（前年同期比）となり、17期連続でプラスとなりました。来期の業況見通しDIは**35.0**（当期比）となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。業況DI実績の推移について、引き続き高い水準で推移しています。

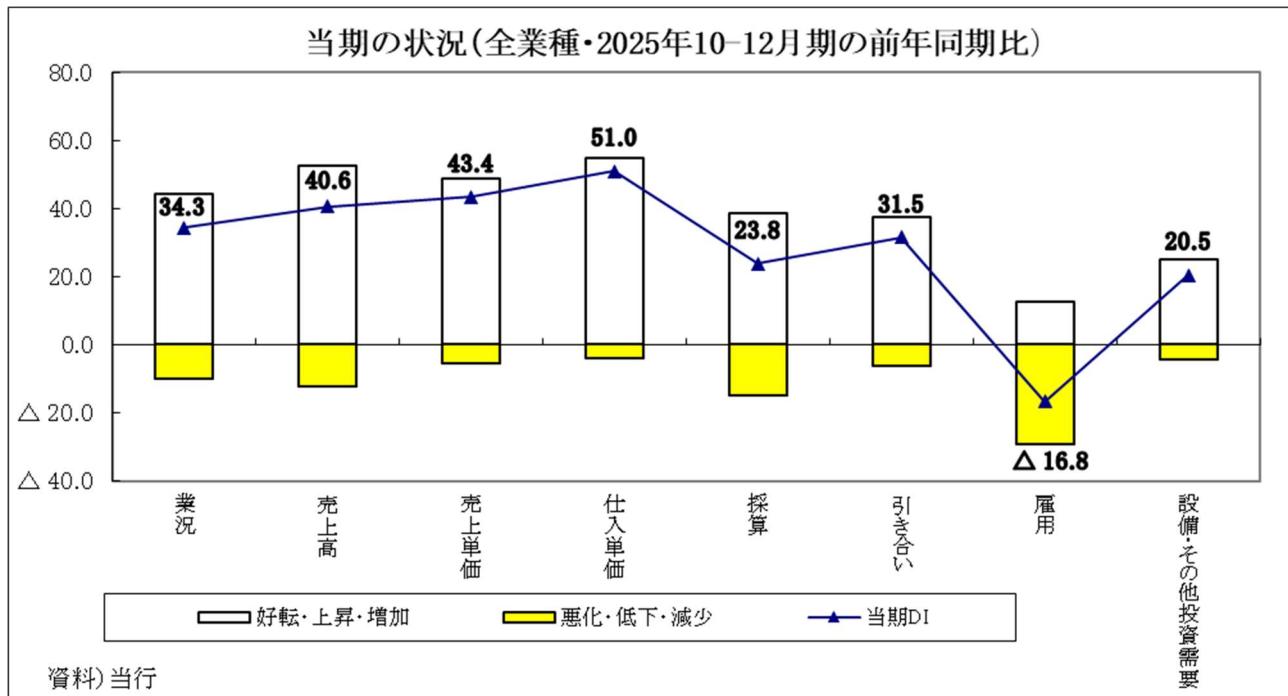
【業況DIの推移】	2024年		2025年				2026年
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期見通し
項目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI
全業種	30.8	33.8	31.2	32.2	32.9	34.3	35.0
製造業	29.4	20.0	△ 13.0	19.4	20.8	38.1	38.1
土木業	61.5	44.4	42.1	17.6	32.4	36.1	25.0
建築業	32.4	40.0	47.1	23.9	39.7	35.2	31.8
卸売業	13.6	18.5	46.2	26.3	26.7	42.9	48.6
小売業	28.6	30.0	33.3	32.7	35.9	18.9	35.1
情報通信サービス業	20.0	66.7	33.3	0.0	50.0	63.6	45.5
医療・福祉	10.0	15.8	10.7	27.6	16.2	△ 5.6	27.8
その他サービス業(宿泊・飲食等)	68.2	53.1	70.0	45.2	58.3	40.0	27.3
運輸業・郵便業	55.6	50.0	33.3	45.5	18.2	44.4	44.4
不動産業・物品賃貸業	18.5	33.3	30.6	37.7	27.0	42.5	41.4
専門・技術サービス業、他	25.0	27.8	10.8	37.7	29.0	33.3	33.3



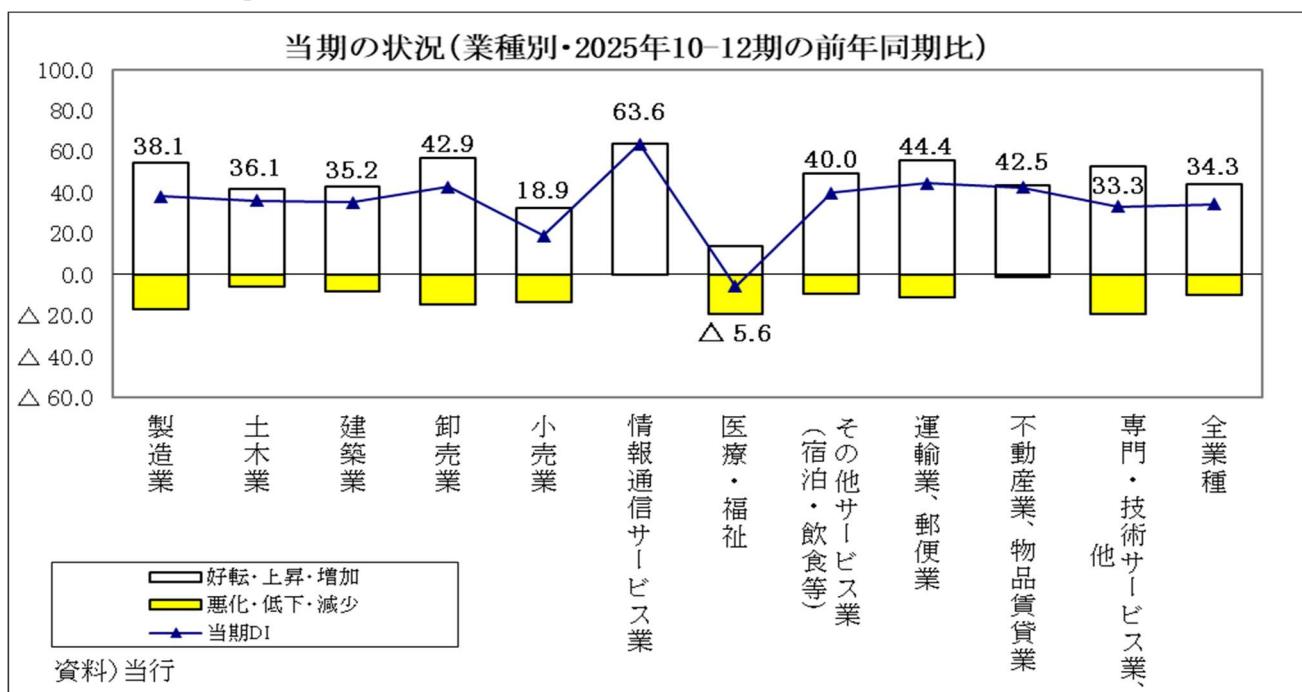
※「2026年1-3月期（見通し）」35.0については、今期（2025年10-12月期）との比較であり、前年同期との比較ではありません。このため折れ線グラフは連続していません。

1. 当期の状況 (2025年10-12月期の前年同期比)

- 当期の業況DIは34.3となり、業況改善がみられます。項目別では、売上高(40.6)や売上単価(43.4)などの項目でプラスとなりました。採算(23.8)は仕入単価(51.0)の上昇により他項目と比較しポイントは低くなっています。雇用(△16.8)はマイナスとなっており、企業における人材不足が続いている。

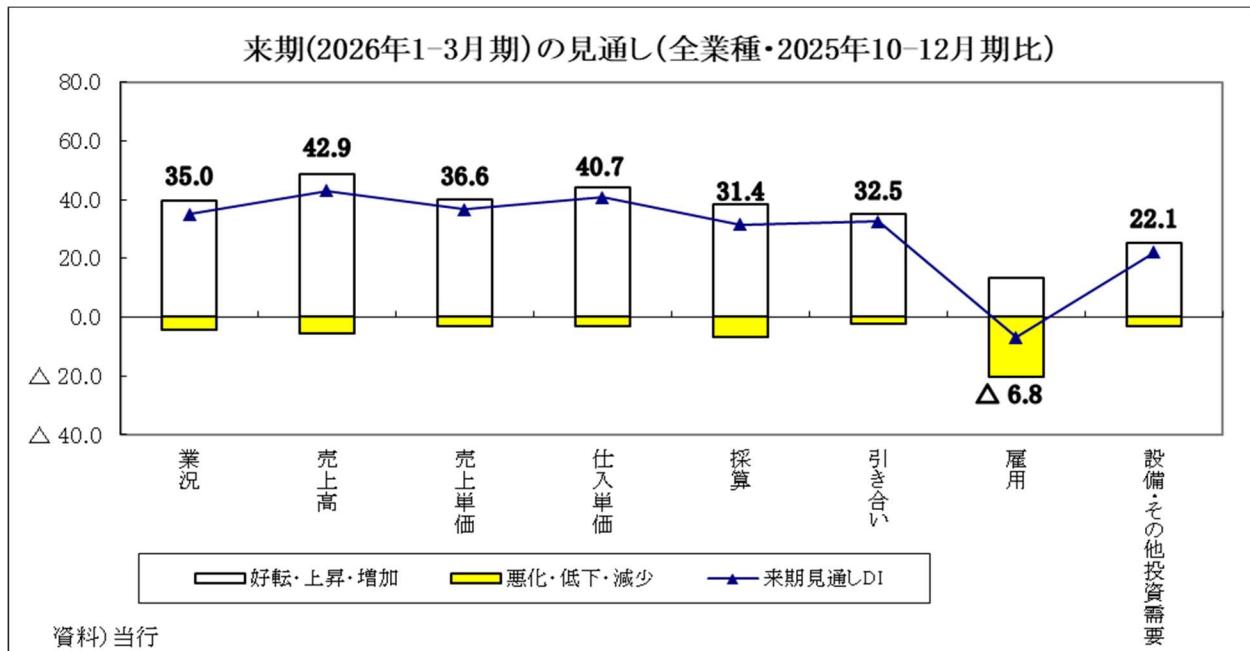


- 業種別では、【情報通信サービス業(63.6)】、【運輸業・郵便業(44.4)】、【卸売業(42.9)】、【その他サービス業(宿泊・飲食等)(40.0)】などでポイントは高くなっています。【医療・福祉(△5.6)】はマイナスとなっており、業況の悪化がうかがえます。

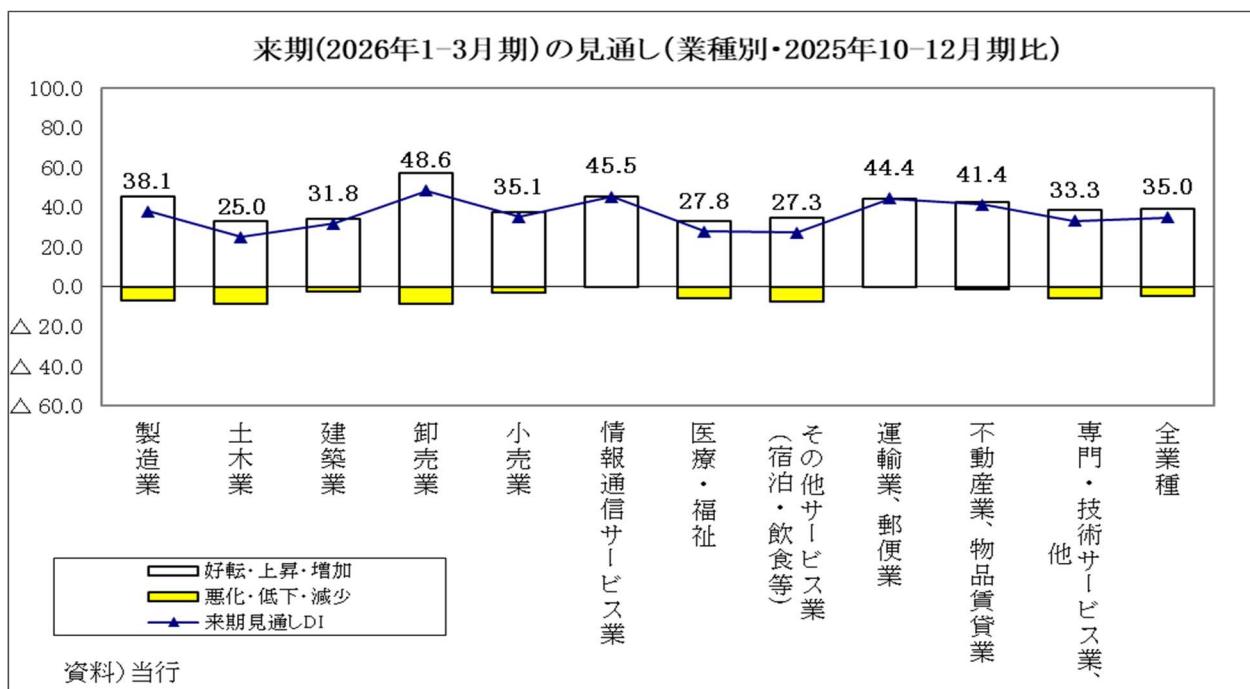


2. 来期の見通し（2026年1-3月期の当期比）

- 来期の見通し業況DIは35.0となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。項目別では、売上高（42.9）や売上単価（36.6）などで改善の動きが見込まれます。雇用（△6.8）は人材不足が続く見通しとなっています。

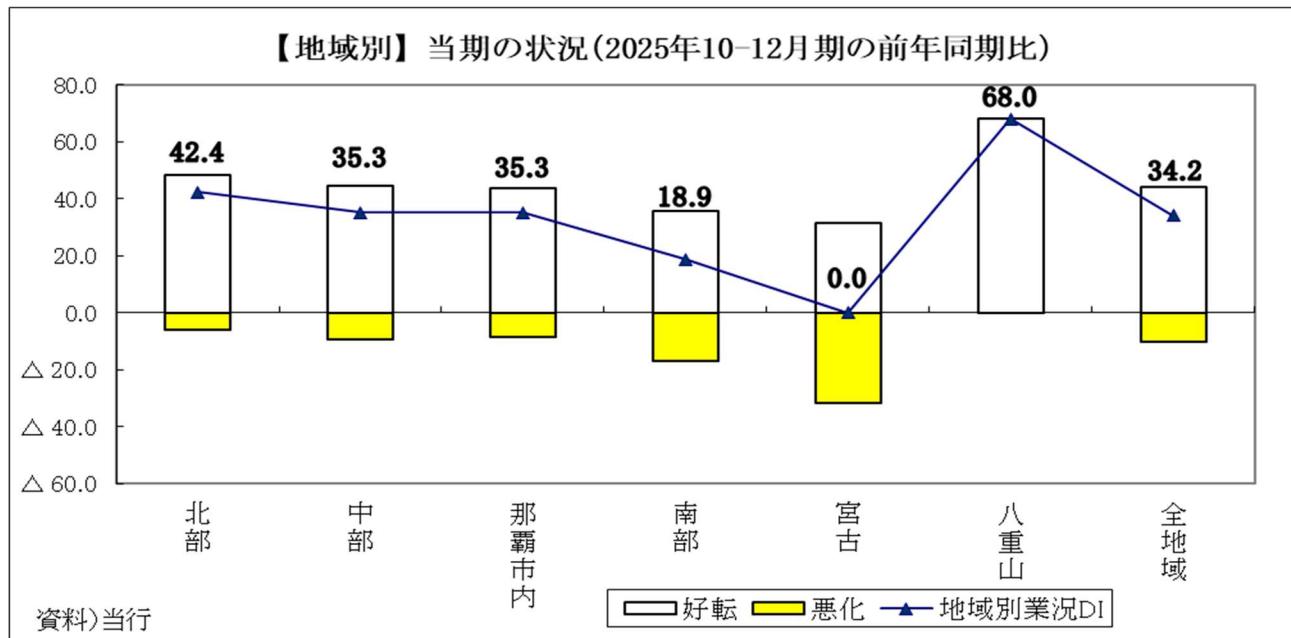


- 業種別では、全業種においてプラスとなりました。【卸売業（48.6）】や【運輸業・郵便業（44.4）】は売上単価の引き上げ予定などからポイントは高くなっています。【情報通信サービス業（45.5）】や【不動産業、物品賃貸業（41.4）】は、引き合い増加や売上単価の引き上げ予定などから、ポイントは高くなっています。

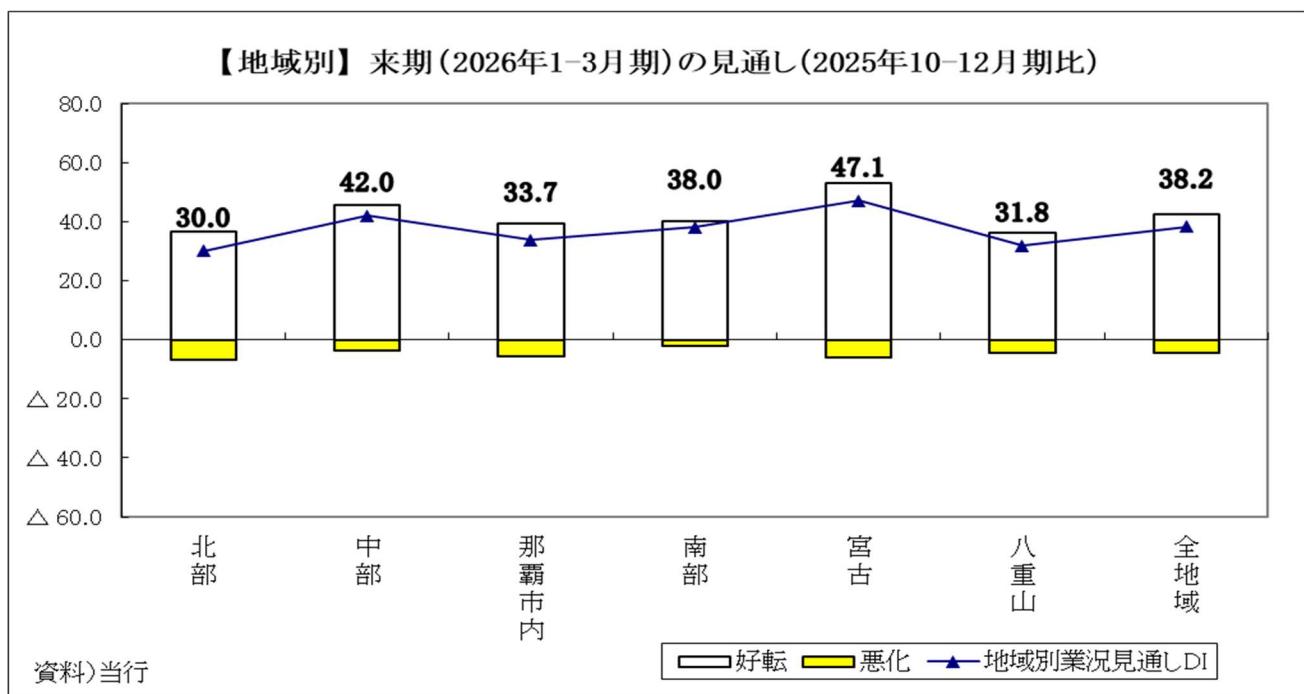


3. 地域別の業況 DI

- 当期の地域別 DI（前年同期比）について、八重山（68.0）は観光客数の増加や、建設関連の工事受注増などからポイントは高くなっています。一方、宮古（0.0）は建設関連の工事受注が減少した事業者がみられることなどから、他の地域と比較しポイントは低くなっています。



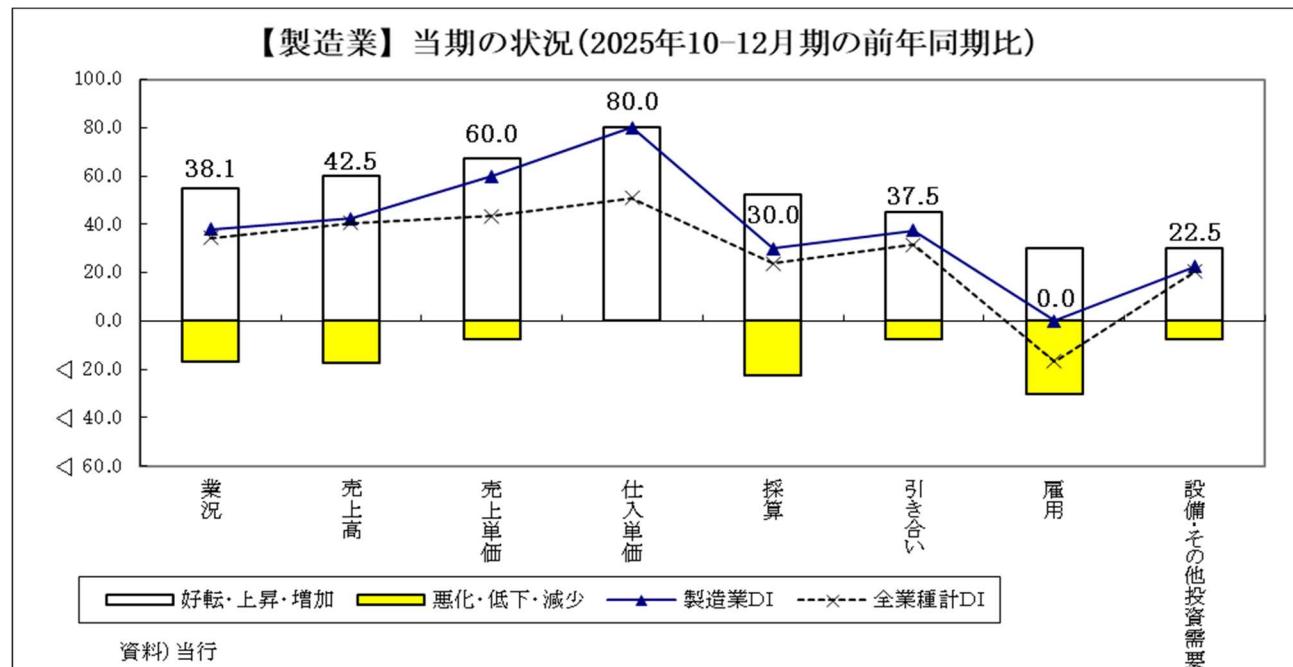
- 来期の地域別見通し業況 DI（当期比）について、全地域において、業況改善が見込まれます。宮古（47.1）は建設関連の工事受注増や、引合い増加を見込む事業者などにより、ポイントは高くなっています。



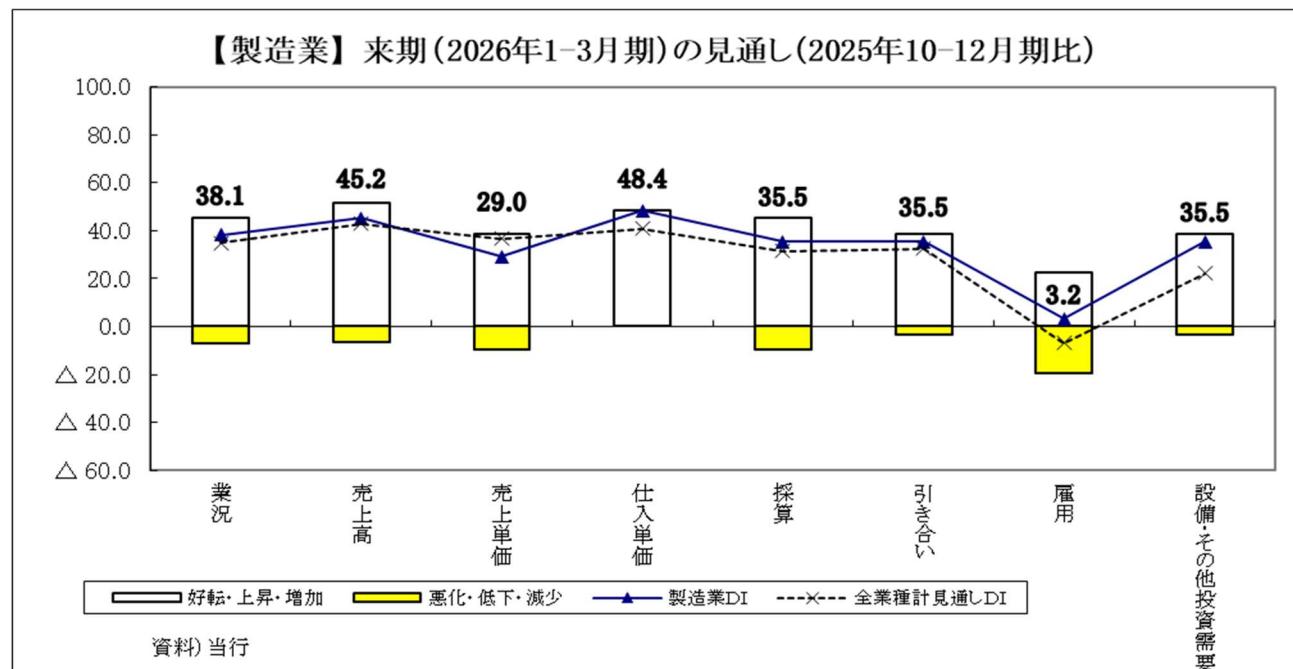
III. 調査結果（各論）

1. 製造業（回答企業：42社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は38.1となりました。売上高（42.5）及び売上単価（60.0）は主に食料品製造業などで単価・引き合いが改善した事業者がみられました。仕入単価（80.0）は原材料費の増加が続いているです。

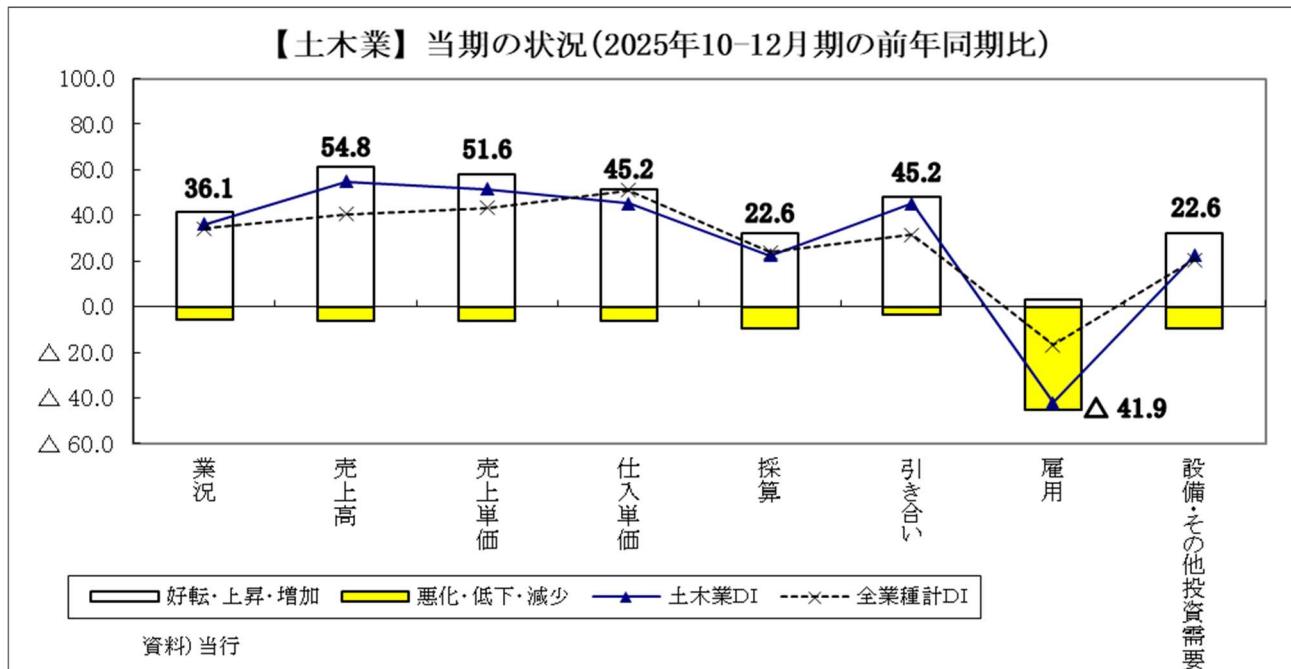


- 来期の見通し業況DI（当期比）は38.1となりました。売上高（45.2）、採算（35.5）は売上単価の改善予定により増加が見込まれます。仕入単価（48.4）は引き続き上昇が続く見通しです。雇用（3.2）はプラスに転じる見通しとなっており、改善が見込まれます。

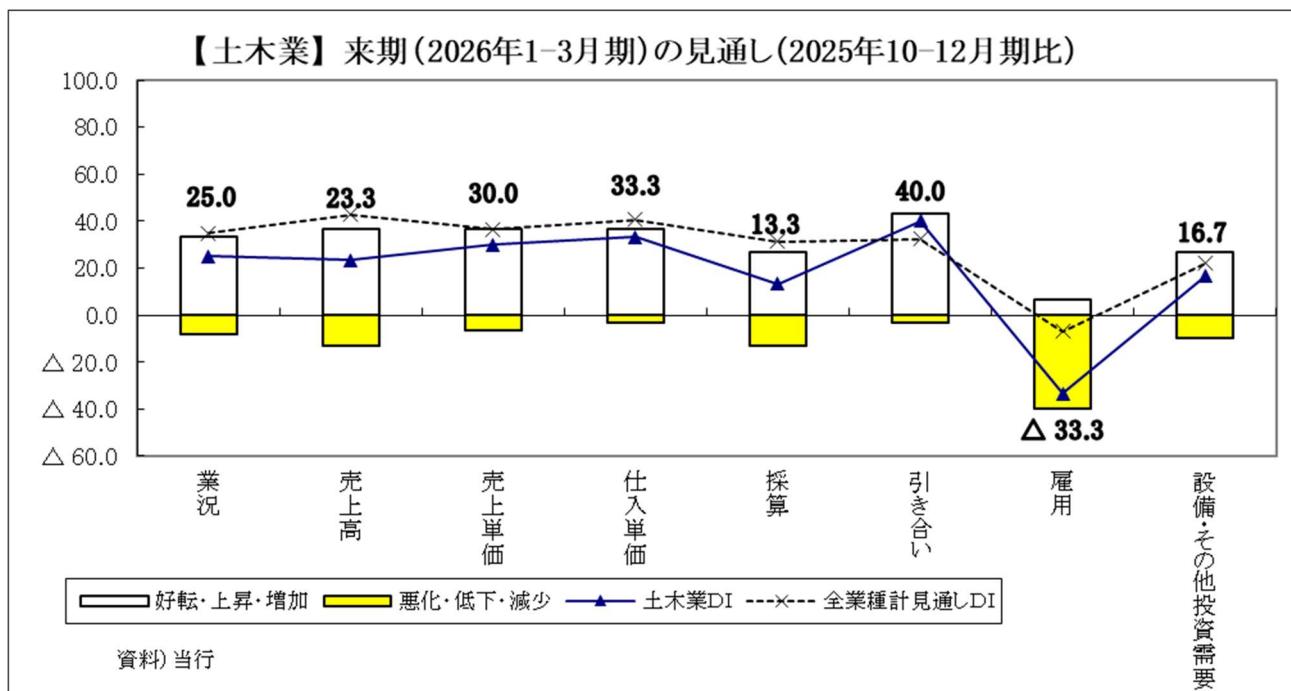


2. 土木業（回答企業：36社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は公共工事（基地関連工事など）の受注増加などから36.1となり、業況改善がみられます。一方、建設資材高騰による仕入単価（45.2）は上昇が続いています。雇用（△41.9）は大幅なマイナスとなっており、人材不足となっています。

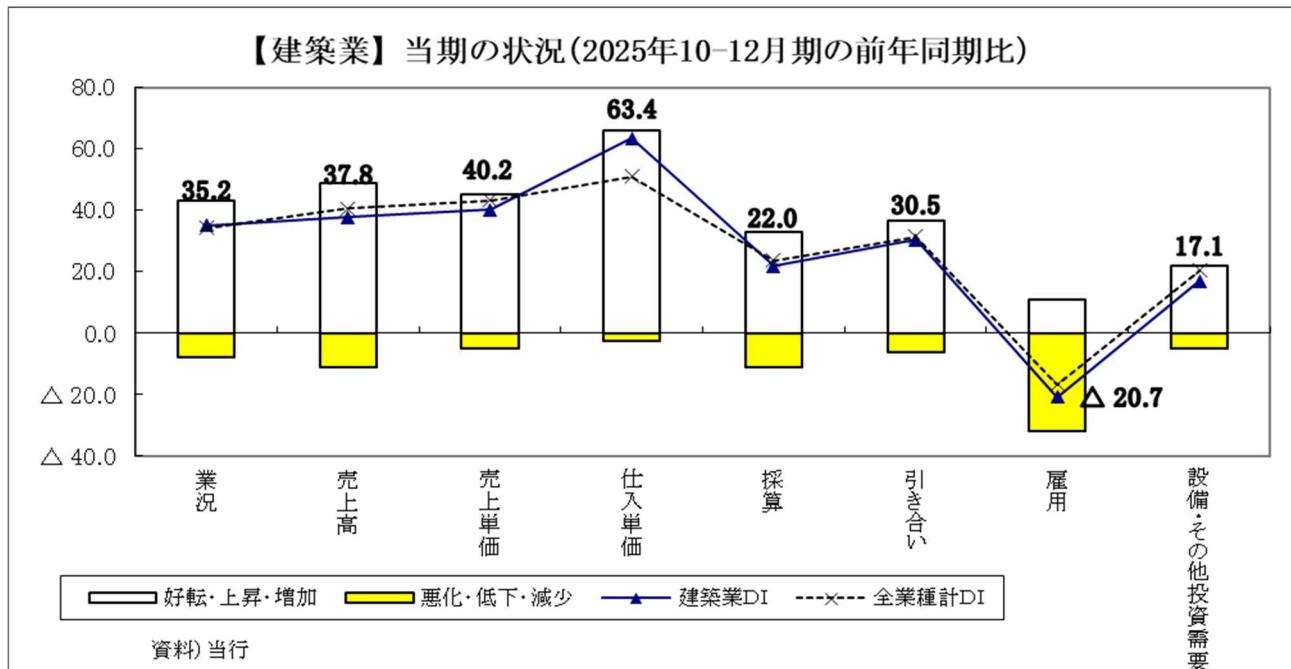


- 来期の見通し業況DI（当期比）は25.0となりました。公共工事の受注増により安定推移を見込む事業者がみられます。また、受注単価の引き上げや引き合い増加見込みの事業者もみられます。雇用（△33.3）は人材不足が続いています。

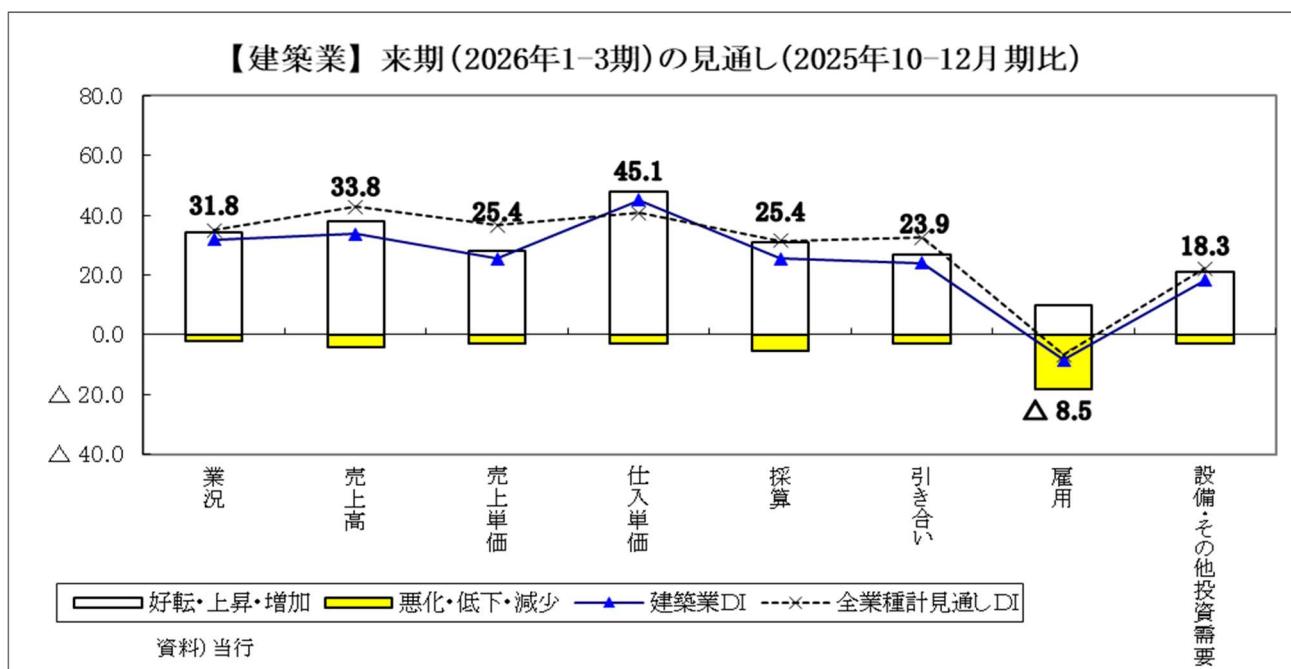


3. 建築業（回答企業：88社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は公共・民間工事の受注増加などから35.2となり業況改善がみられます。仕入単価（63.4）は資材高騰によりポイントは高くなっています。雇用（△20.7）は、人材不足が見られます。

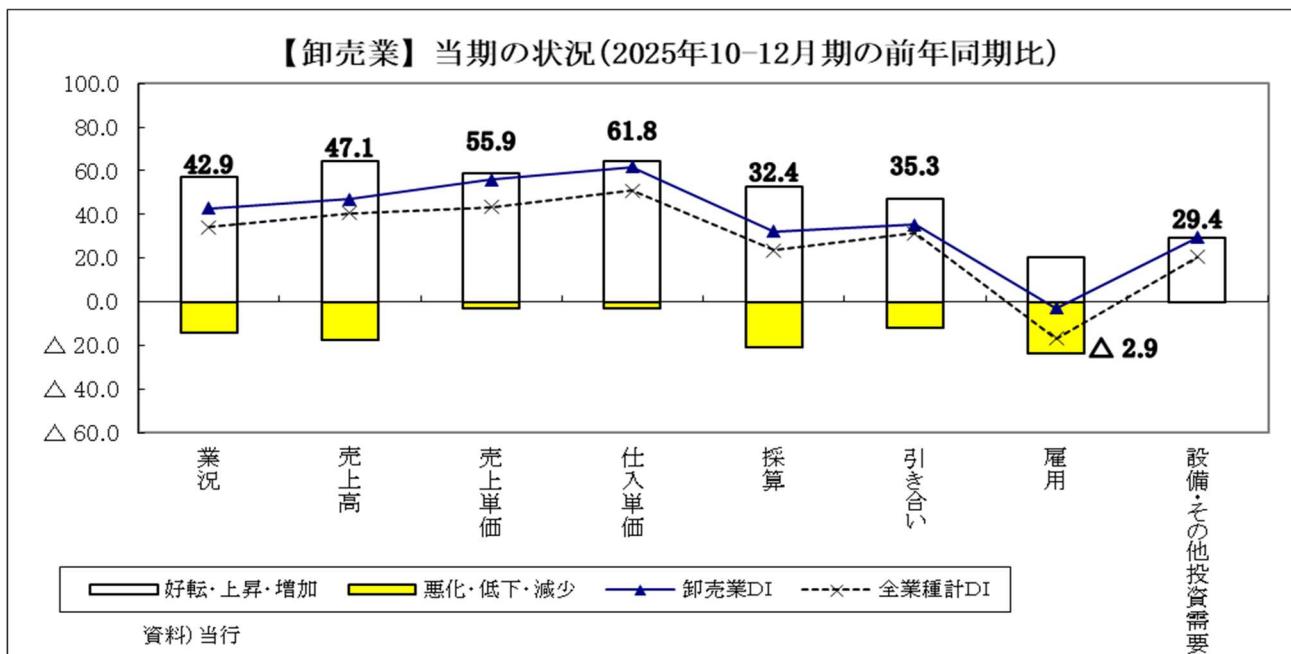


- 来期の見通し業況DI（当期比）は31.8となりました。民間工事（ホテル・住宅・アパート等）の受注見込みなどにより業況改善が見込まれます。仕入単価（45.1）は、外注費や資材価格高騰が続く見通しです。

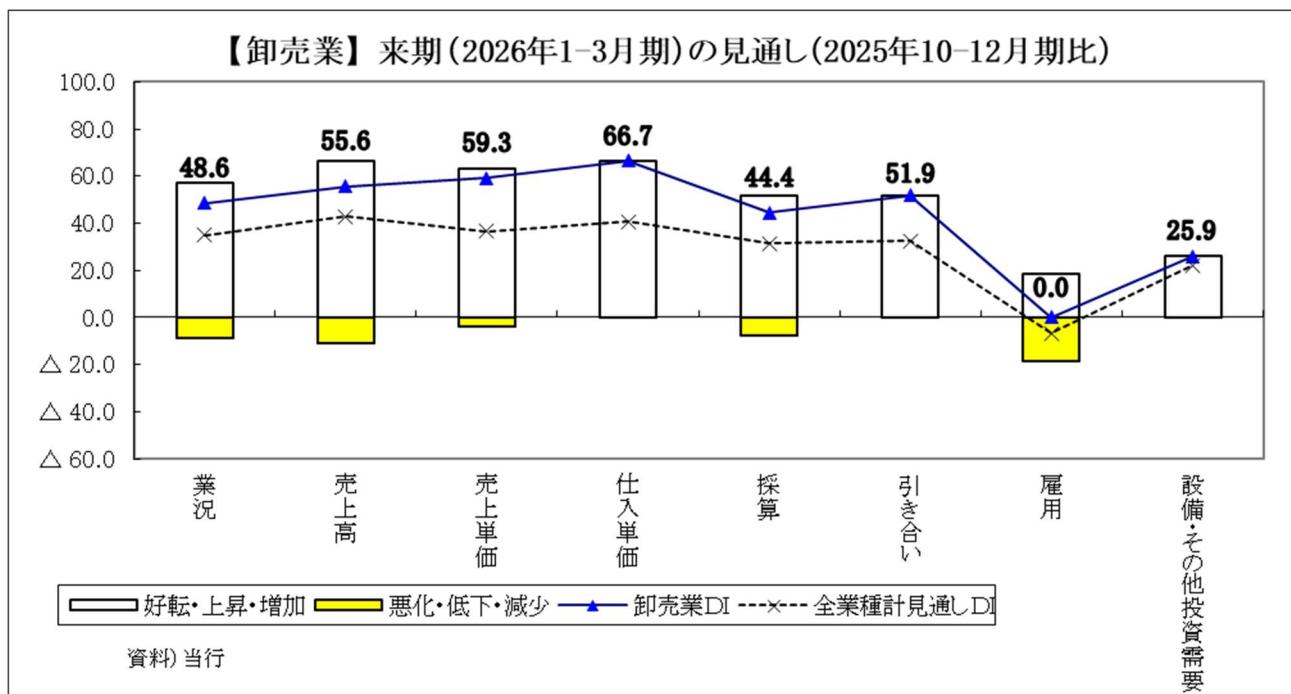


4. 卸売業（回答企業：35社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は42.9となりました。売上高（47.1）は価格転嫁による売上単価（55.9）の改善や取引先の増加などから業況改善がみられます。仕入単価（61.8）は、原材料高騰による上昇が続いている。全業種平均と比較しポイントは高く、好調な業況がうかがえます。

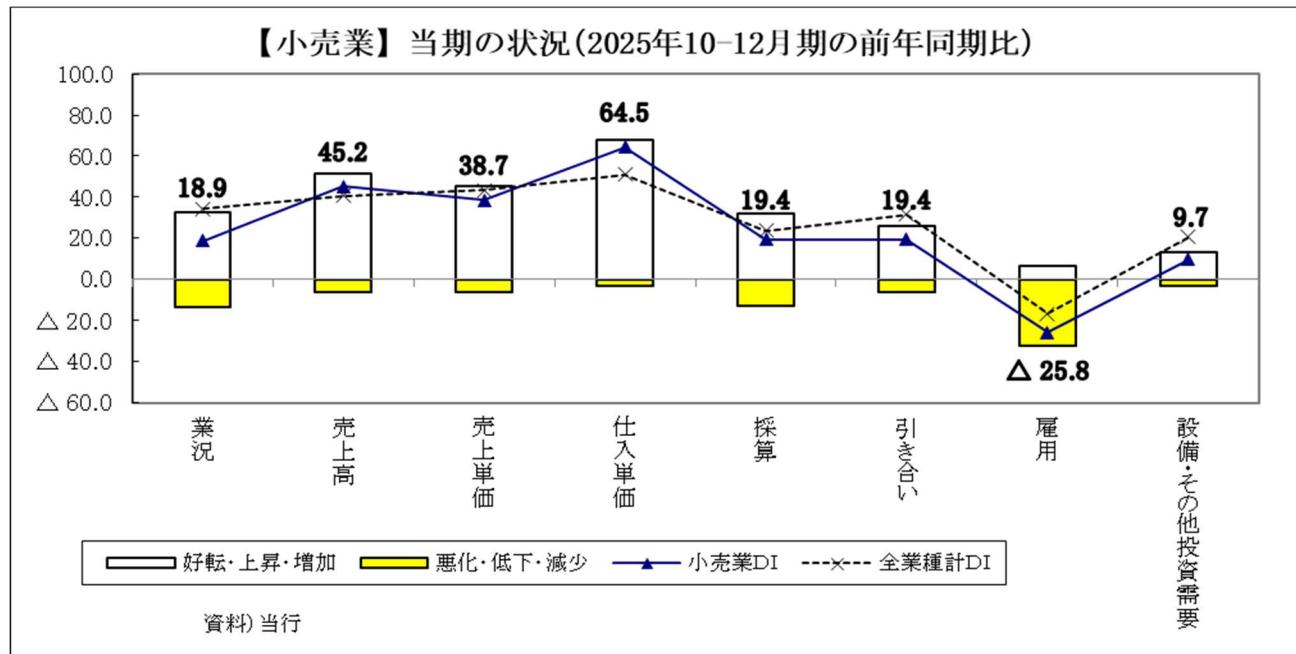


- 来期の見通し業況DI（当期比）は48.6となりました。引き合いの増加が見込まれ、価格転嫁を継続する事業者が多くみられます。一方、仕入単価（66.7）は上昇が続く見通しであるが、採算も改善見込みであり、引き続き好調な業況が見込まれます。

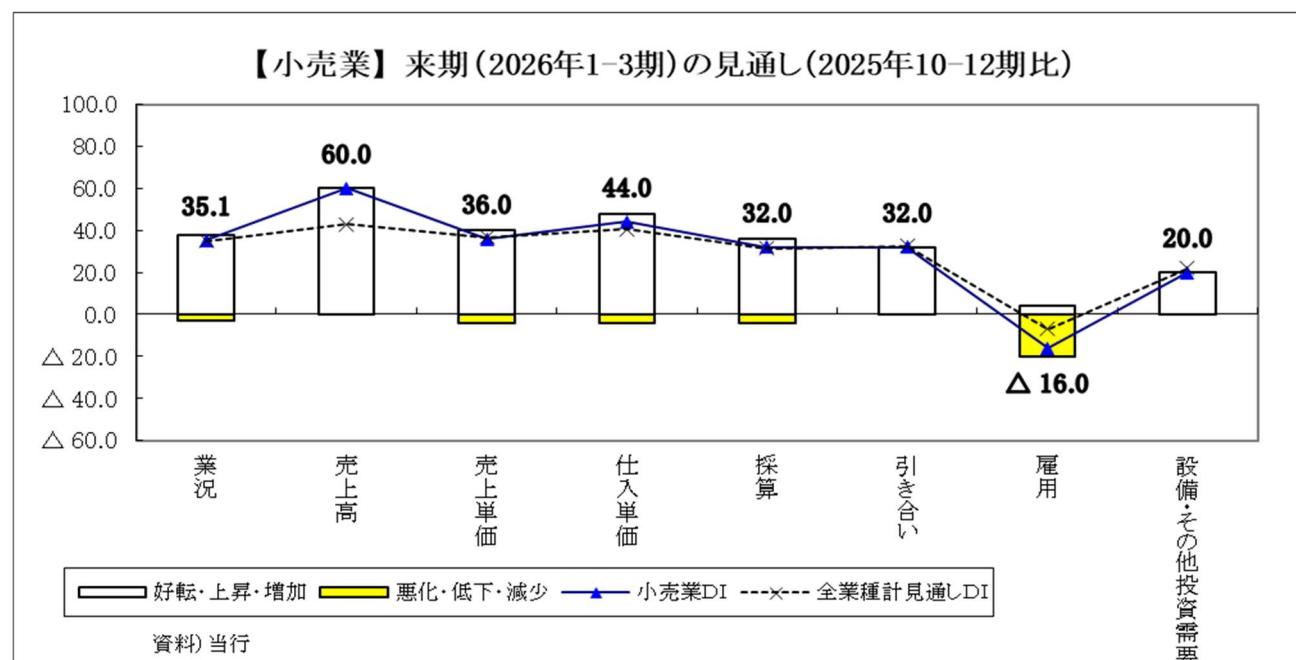


5. 小売業（回答企業：37社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は18.9となりました。食料品小売業は、観光客増加などを背景に、売上高（45.2）や売上単価（38.7）が改善しています。仕入単価（64.5）は上昇が続いているが、価格転嫁により採算（19.4）の改善がみられます。雇用（△25.8）は人材不足みられます。

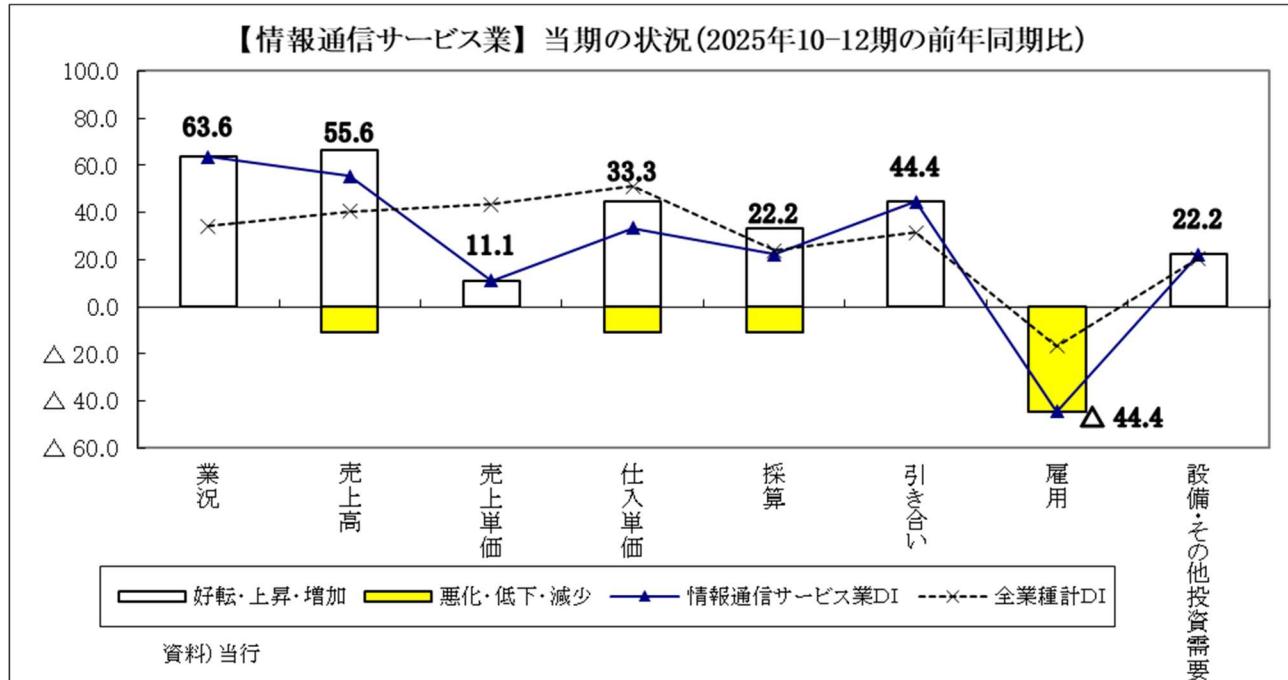


- 来期の見通し業況DI（当期比）は35.1となりました。新規顧客の増加や、継続した価格転嫁の予定により売上高（48.5）や採算（33.3）はポイントが高くなっています。雇用（△16.0）は引き続き人手不足が続いています。

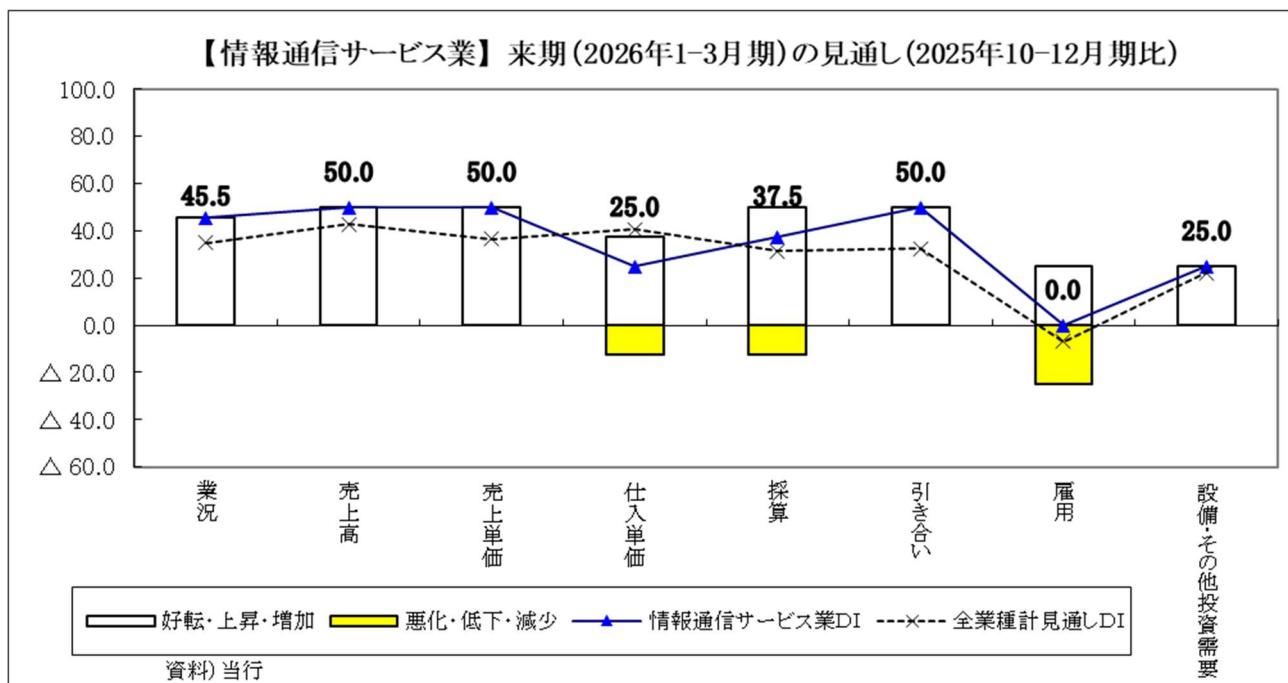


6. 情報通信サービス業（回答企業：11社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は63.6となりました。システム開発事業者では、新規顧客の獲得や安定した業務受注により売上高が改善した事業者がみられます。雇用（△44.4）は全体的な人材不足となっています。

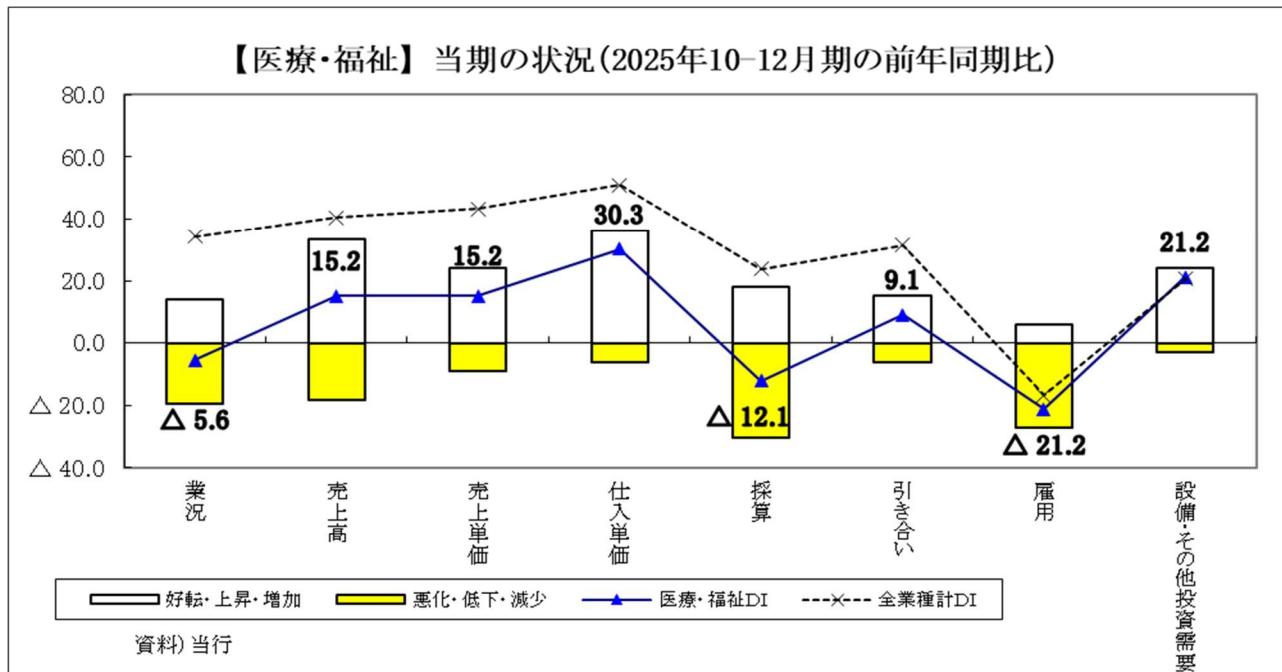


- 来期の見通し業況DI（当期比）は45.5となりました。新規顧客のシステム開発業務の受注増などから、売上高や売上単価の改善により、業況改善を見込む事業者がみられます。雇用(0.0)については、一部事業者において改善の見込みとなりますが、全体としては横ばいの傾向です。

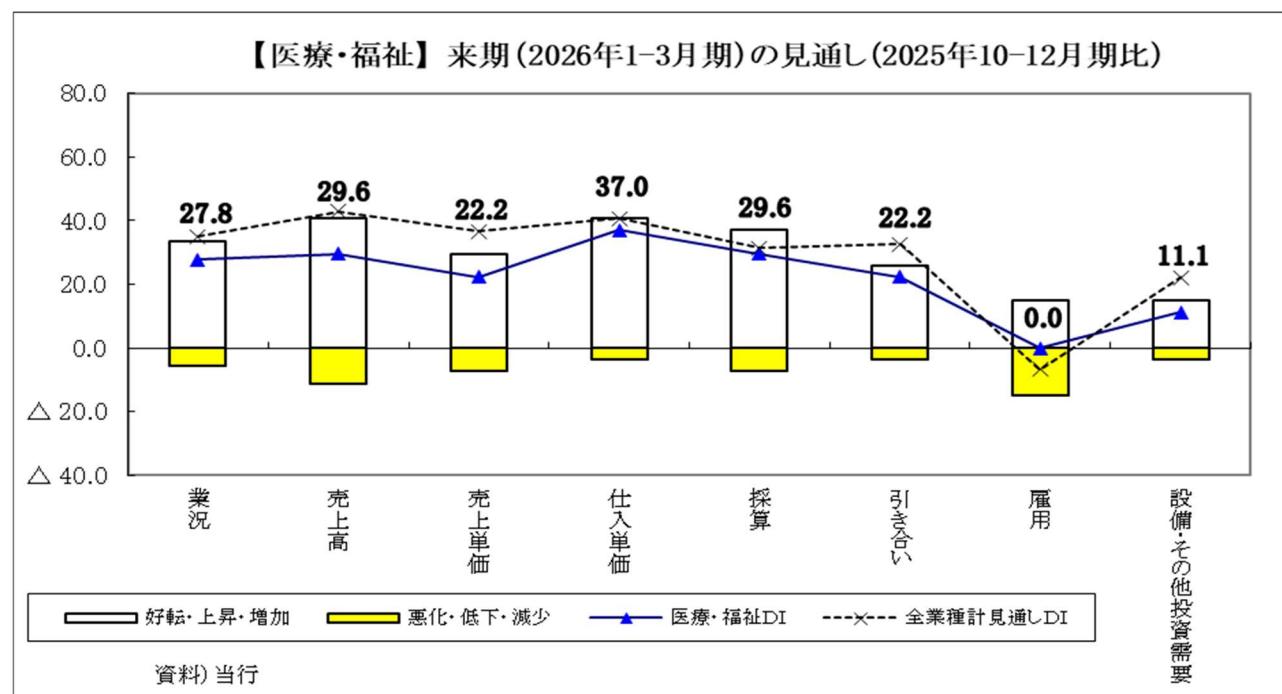


7. 医療・福祉 (回答企業 : 36 社)

- 当期の業況 DI (前年同期比) は△5.6となりました。一部介護事業者では、利用者数や売上単価の改善が見られました。一方、仕入単価や人件費などの費用が増加しており、採算 (△12.1) はマイナスとなり、業況は悪化しています。雇用 (△21.2) は、人材不足が見られます。

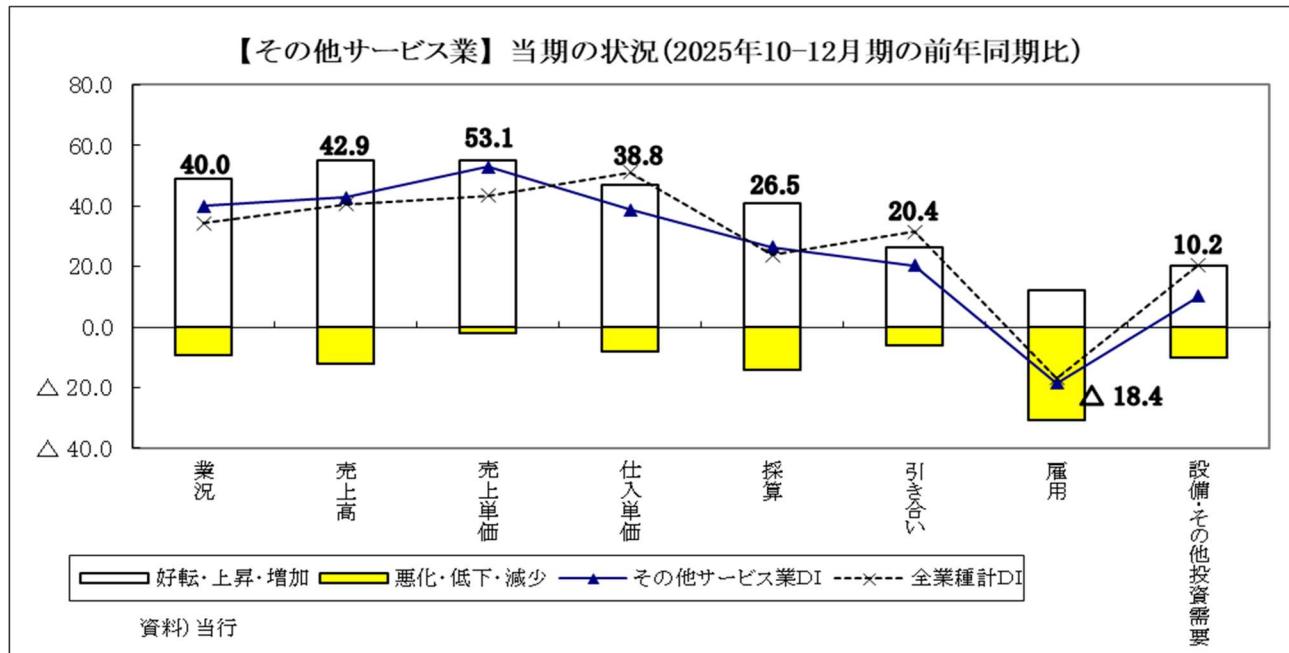


- 来期の見通し業況 DI (当期比) は 27.8 となりました。介護施設利用の需要増加から業況改善が見込まれます。売上高 (29.6) は利用者数増加を見込む事業者が多くみられます。一方、仕入単価や人件費などの費用増加が続いており、採算改善には課題が残っています。

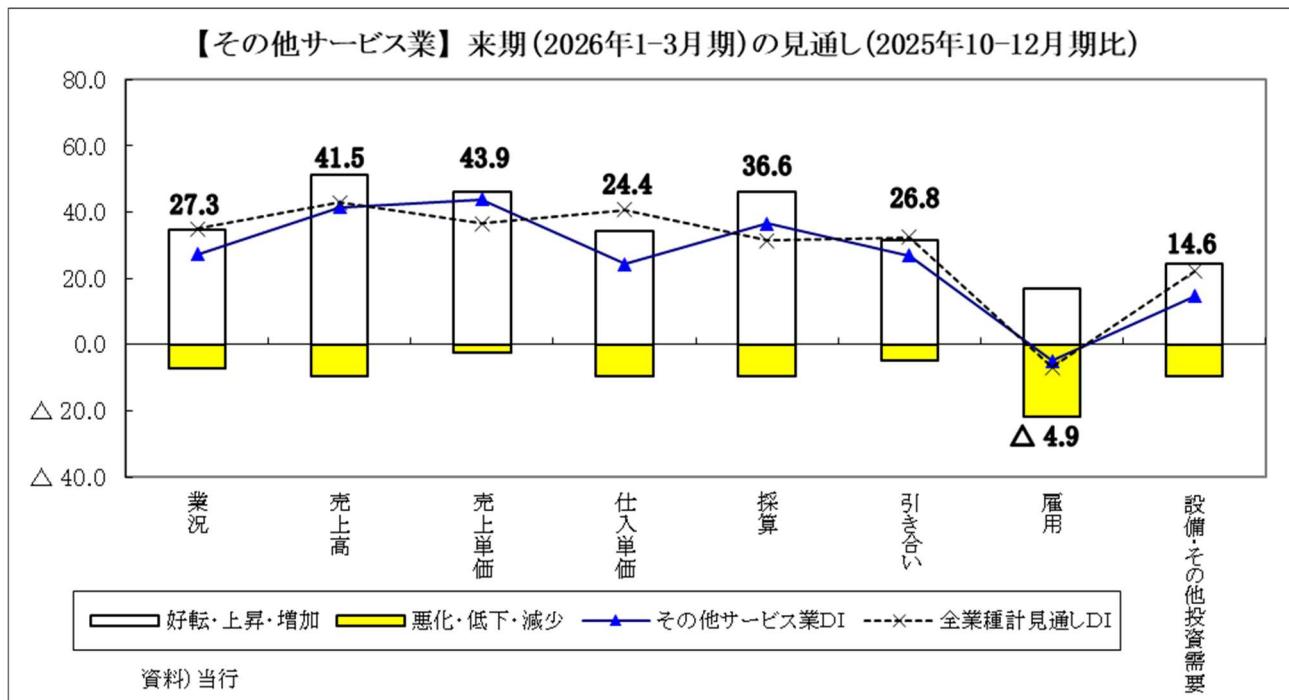


8. その他サービス業（ホテル、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）
 (回答企業：55社)

- 当期の業況DI（前年同期比）は40.0となりました。売上高（42.9）は、観光客数の増加を背景に業況の改善が見られます。また、需要増加に伴い売上単価（53.1）は上昇しました。雇用（△18.4）は、人材不足がみられます。

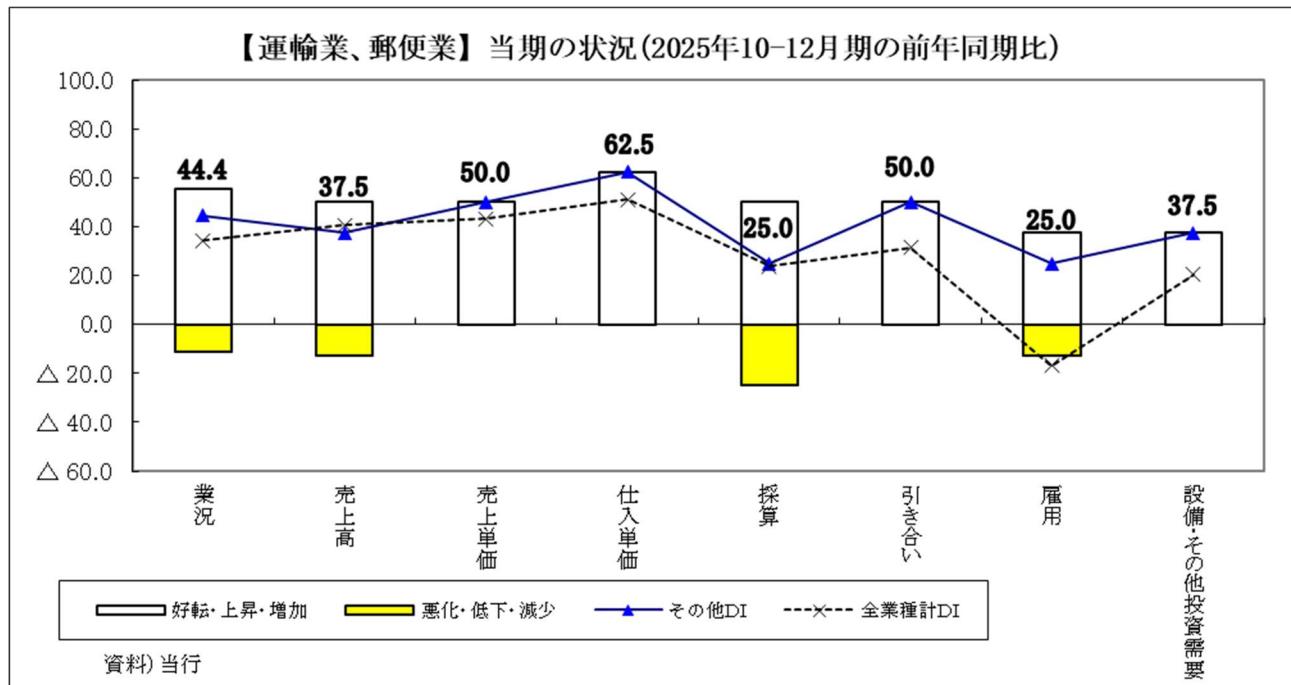


- 来期の見通し業況DI（当期比）は27.3となりました。引き合い増加や売上単価の改善により、採算改善を見込む事業者がみられます。雇用（△4.9）は人材不足が続いている。

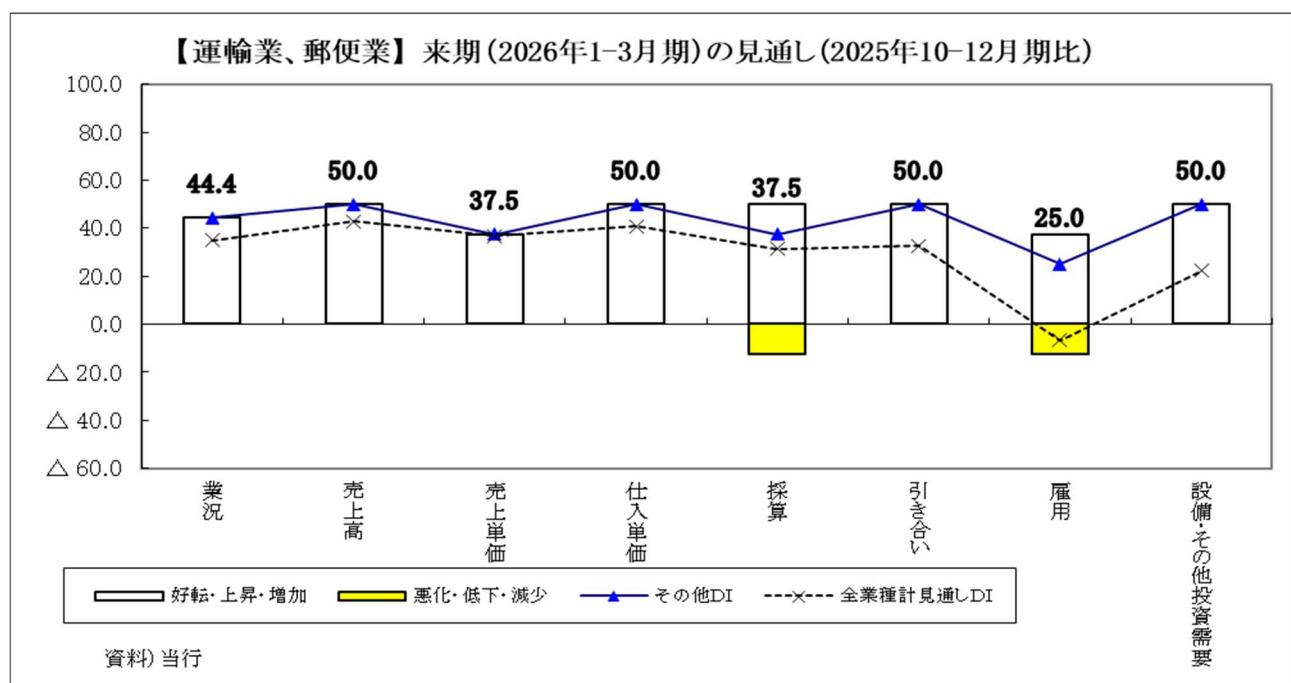


9. 運輸業、郵便業（回答企業：9社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は、44.4となりました。仕入単価（62.5）は、燃料費などの増加があったものの、価格転嫁を進めたことで採算（25.0）が改善した事業者が多くみられました。雇用（25.0）についても、改善が見られました。

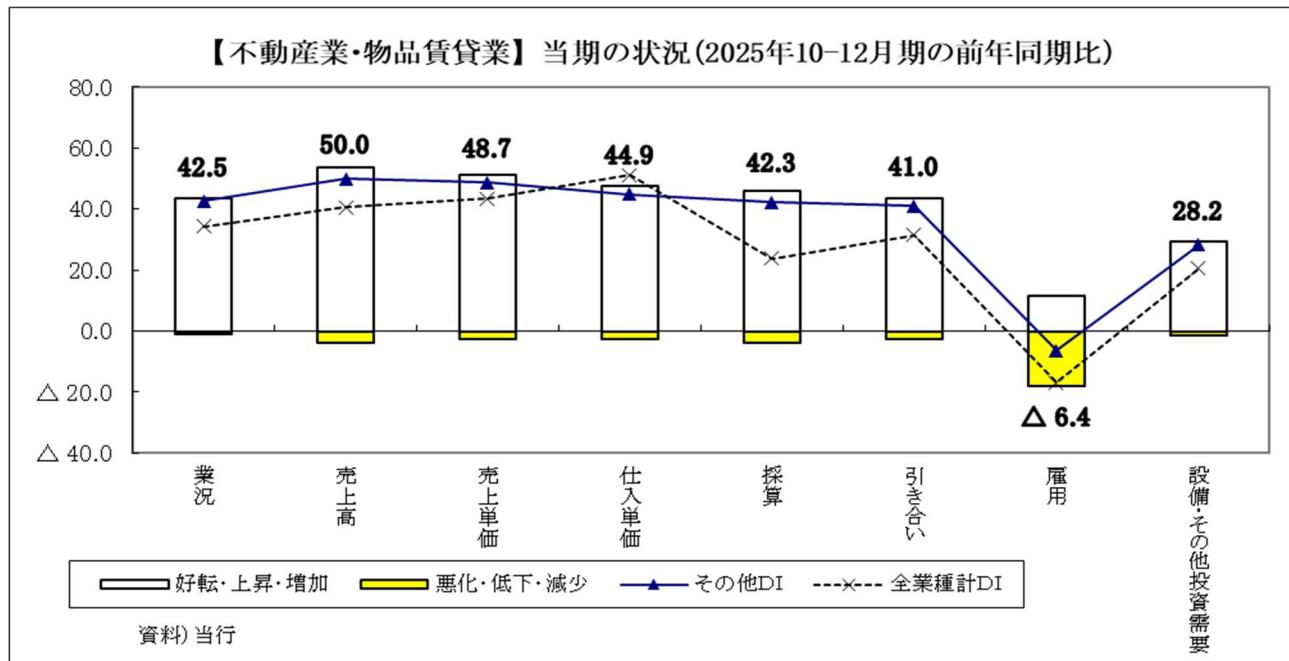


- 来期の見通し業況DI（当期比）は44.4となりました。貨物事業において、受注増加や継続した値上げの予定により、売上や採算の改善を見込む事業者がみられます。雇用（25.0）についても改善する見通しです。

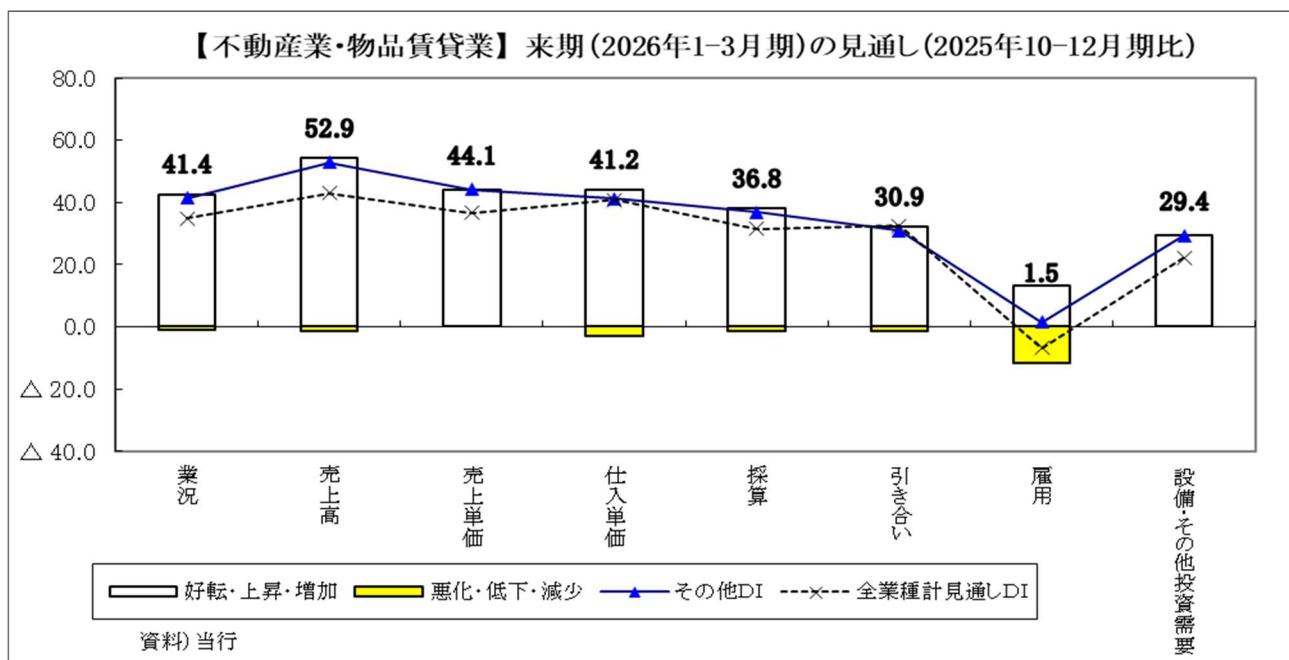


10. 不動産業、物品賃貸業（回答企業：87社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は42.5となり、業況の改善がみられます。不動産売買・仲介業は売上単価の上昇や売買件数が増加したことにより業況が改善した事業者が多くみられ、不動産需要の高さが窺えます。物品賃貸業においても、売上単価や引き合い增加による業況改善が見られます

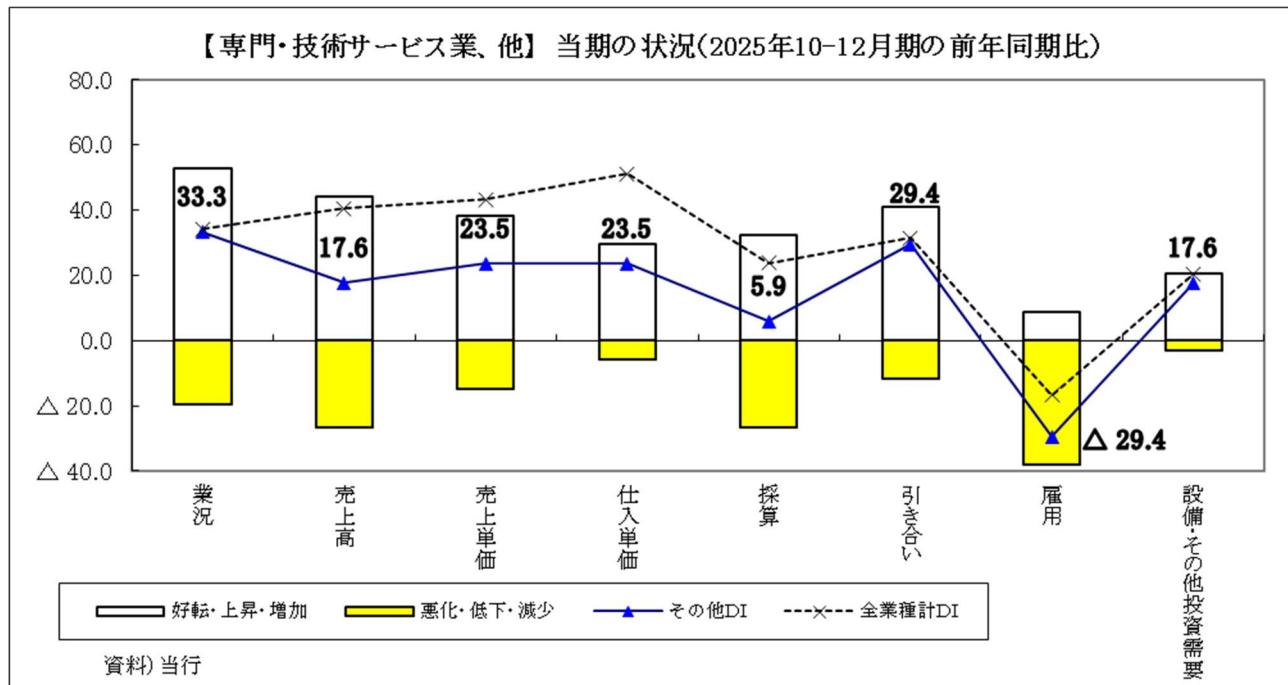


- 来期の見通し業況DI（当期比）は41.4となりました。採算（36.8）は、売上単価の改善や、引き合い増加の見込みなどにより、他業種と比較しポイントは高くなっています。雇用（1.5）についてもプラスに転じる見込みであり、改善する見通しです。

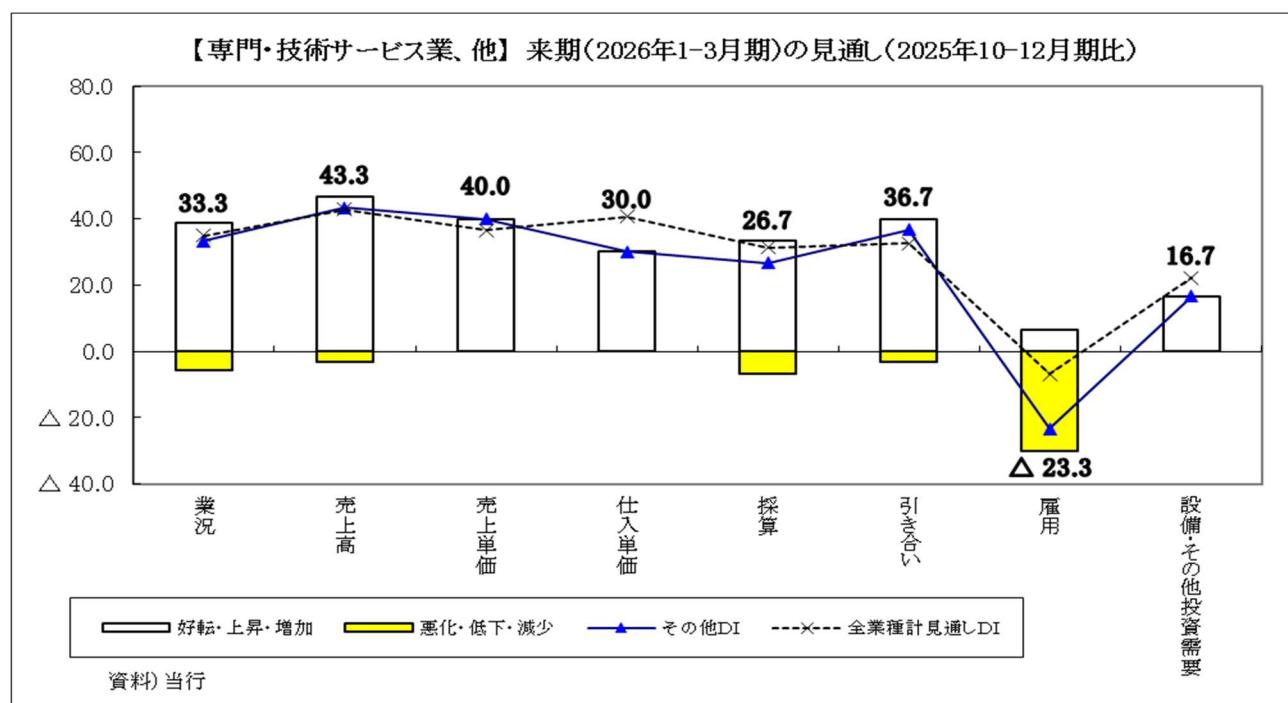


11. 専門・技術サービス業、他（回答企業：36社）

- 当期の業況DI（前年同期比）は33.3となり、業況の改善がみられます。売上単価（23.5）は改善しているものの、仕入単価の上昇も続いており、採算（5.9）は他の業種と比較しポイントは低くなっています。雇用（△29.4）は、人材不足がみられます。



- 来期の見通し業況DI（当期比）は33.3となりました。売上単価の引き上げ予定により採算改善を見込む事業者が多くみられます。引き合い（36.7）は他業種と比較し高く、今後も安定推移する見通しです。



IV. まとめ（総括）

➤ 【当期の業況 DI】

当期（2025年10-12月期）の業況DIは**34.3**（前年同期比）と17期連続のプラスとなりました。項目別では、売上単価の改善や、引き合い増加などによる業況改善がみられます。一方、人件費や仕入単価の上昇が続いており、採算については業種ごとに差がみられました。雇用はマイナスが続いている、人材不足がみられます。

業種別では、堅調な観光客数の増加を背景に、【製造業】や【卸売業】、【その他サービス業（宿泊・飲食等）】で改善があった他、【情報通信サービス業】、【運輸業・郵便業】、【不動産業・物品賃貸業】のポイントは高くなっています。一方で、仕入単価や人件費などの費用増加などにより、【医療・福祉】においては、業況の悪化がみられました。

➤ 【来期の見通し業況 DI】

来期（2026年1-3期）の見通し業況DIは**35.0**（当期比）となりました。項目別では、売上高や売上単価、採算などで業況改善が見込まれます。仕入単価は引き続き上昇が続く見通しとなりました。また、雇用においても人材不足が続く見通しです。

業種別では、全業種においてプラスとなっています。【卸売業】、【運輸業・郵便業】、【不動産業・物品賃貸業】は、引き合い増加や継続した売上単価の引き上げ予定などによりポイントは高くなっています。【医療・福祉】においては、当期比では業況改善の見込みとなるものの、2026年度の報酬単価の引き上げが業況改善の鍵となる見通しです。